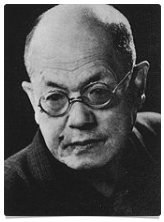
1



日本文学（近代文学）史講義

第8回　自然主義をやっつけろ！

Dr.ヒッキー日本文化研究所 2014

Ｄｒ．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

2

大正初期の概略（作文対策）

Dr.ヒッキー日本文化研究所 2014

自然主義が文壇の主流を占める中

①　明治の終わりごろから夏目漱石や森鴎外は、別格扱い。

②　当初自然文学に傾倒していた永井荷風は、欧州から帰国後、『ふらんす物語』を発表。荷風に激賞された谷崎潤一郎は『刺青』や『痴人の愛』をなどを書き、後期退廃主義とも呼ばれる耽美派が生まれた。これは「スバル」「三田文学」を中心に活動した。ほかに佐藤春夫、久保田万太郎に代表される。

③　これに対し、自由・民主主義の空気を背景に、「白樺」で活動した白樺派の人々は、人道主義を主張した。『お目出たき人』『友情』の武者小路実篤や、『和解』『暗夜行路』の志賀直哉、『或る女』の有島武郎、『出家とその弟子』の倉田百三らである。

④　大正中期からは東京帝大系統の「新思潮」で活動する新思潮派が漱石や鴎外の影響の下に現れ、芥川龍之介や久米正雄らの活動があった。龍之介は『鼻』で登場し、古典に取材した数多くの短編などで大正文壇の寵児となった。一方、菊池寛や山本有三などの劇作家の活躍もあった。

⑤　また自然主義では、新早稲田派とも呼ばれる宇野浩二や広津和郎、葛西善蔵らによって雑誌『奇蹟』が出され、心境小説、私小説が書かれた。

Ｄｒ．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

3

自然主義なんかに負けない！

Dr.ヒッキー日本文化研究所 2014

自然主義の中心（早稲田大学）

人間の醜悪
「奇蹟」派

現実の重視

人間の汚さ

東京大学
理知派
理知主義
物語は作家が
創り出していくんだ

学習院大学
「白樺」派
人道主義
人間は、もっと
すばらしいもんだ

慶應大学
耽美派
女性美至上主義
美しいもんを
描いていこうぜ！

next

Ｄｒ．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

4

白樺派

Dr.ヒッキー日本文化研究所 2014

大正デモクラシーなど自由主義の空気を背景に人間の生命を高らかに歌い、理想主義・人道主義・個人主義的な作品を創作した。人間肯定を指向し、自然主義にかわって大正時代の文学の中心となった。1910年刊行の雑誌『白樺』を中心として活動した。学習院の学生で顔見知りの十数人が、1908年から月2円を拠出し、雑誌刊行の準備を整えたという。同窓・同年代の作家がまとまって出現したこのような例は、後にも先にも「白樺」以外にない。『白樺』は学習院では「遊惰の徒」がつくった雑誌として、禁書にされた。彼らが例外なく軍人嫌いであったのは、学習院院長であった乃木希典が体現する武士像や明治の精神への反発からである。さらには漢詩や俳諧などの東洋の文芸に関しても前世代より無知であり、雅号・俳号の類を用いなかった。特にロダンなど西欧の芸術に対しても目を開き、その影響を受け入れた。

同人

武者小路実篤、志賀直哉、有島武郎、木下利玄、里見弴、柳宗悦、郡虎彦の他、画家では中川一政、梅原龍三郎、雑誌『白樺』創刊号の装丁も手がけた美術史家の児島喜久雄らがいる。

武者小路は思想的な中心人物であったと考えられている。

多くは学習院出身の上流階級に属する作家

Ｄｒ．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

5

武者小路 実篤

Dr.ヒッキー日本文化研究所 2014

武者小路 実篤

（1885年5月12日 - 1976年4月9日）

経歴

東京府東京市麹町区（現在の東京都千代田区）に江戸時代以来の公卿の家系である武者小路家に子爵・武者小路実世の第8子として生まれた。学習院初等科、中等学科、高等学科を経て、1906年に東京帝国大学哲学科に入学。1910年には志賀直哉、有島武郎、有島生馬らと文学雑誌『白樺』を創刊。これに因んで白樺派と呼ばれる。トルストイに傾倒した。また、白樺派の思想的な支柱であった。

Ｄｒ．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

6

新しき村

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

理想的な調和社会・階級闘争の無い世界（ユートピア）の実現を目指して、1918年に宮崎県児湯郡木城村（現・児湯郡木城町）に「新しき村」を建設したが、1938年にダム建設により村の大半が水没したため、1939年に埼玉県入間郡毛呂山町に新たに「新しき村」を建設した。両村は現存する（村民になるには年齢は原則として40歳以下の年齢制限がある）。但し、実篤は1924年に離村し、村外会員（村に居住せず会費を納める）となり、“村民”であったのは僅か6年である。

芸術　と　自活　の両立　＝　新しき村　の理念

Dr．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

7

武者小路批判もある

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

実篤は、白樺派の思想代名詞的存在であり、理想主義・空想社会主義的行動（前述の村建設など）が現実離れしているとして揶揄の対象とする人もいた。また、上流階級の子弟にありがちな気紛れで無責任とも取れる言動（自ら提唱した新しき村を僅か6年で離村している）も批判された事もある。一般的には、確固たる思想的裏付けが無く、近視眼的な理想主義・現実離れな言動で、軽率であるとの懐疑的な見方が多い。

金持＝資本主義社会が生み出した勝ち組

共産社会＝資本主義社会を打倒する理念

Dr．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

8

武者小路の作品

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

『お目出たき人』1911年

『その妹』1915年　　「白樺」文化圏

『友情』1919年　　新しき村の活動とその支持者

『幸福者』1919年　　「人道」

『人間万歳』1922年　「白樺」等文学活動　　共同生産社会の実践

『或る男』1921年 - 1923年

『真理先生』1949年 - 1950年

Dr．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

9

ホモソーシャルと ホモセクシャル

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

男同士の絆

イギリス文学とホモソーシャルな欲望

イヴ・K．セジウィック著

上原 早苗訳

亀沢 美由紀訳

私たちの生活している社会ー男のインタレスト（利益ー関心）が優先される仕組み

家父長制社会ー父権性社会

（例）「仕事か、結婚か」の二者択一で悩む男はいない。

家父長制社会ー強制的異性愛が組み込まれている

異性愛というマジョリティが、異性愛が「自然」であると、あの手この手で幼児期から異性愛イデオロギーを押しつける。

家父長制社会ー同性愛は必然的に嫌悪されるーこれをホモフォビアといいます。

Dr．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

10

反転し外化される欲望

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

家父長制社会　　ホモソーシャルの重視

（条件）　　ホモセクシャルの否定

ミソジニー（女性嫌悪）

①、女性は男同士の絆を維持するための溶媒

②、ホモソーシャルとホモセクシュアルとは一方で潜在的に切れ目のない連続体を形成している

③、男性のヘテロセクシュアル・アイデンティティと近代の男権主義文化とは、それら自体を維持するために、広く行きわたりしかもそもそも男性に内在する同性間欲望を、スケープゴートにするような形で顕在化させることを必要とする

（参考）　「クローゼットの認識論」

Dr．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

11

有島武郎

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

有島 武郎

（1878年（明治11年）3月4日

- 1923年（大正12年）6月9日）

学習院卒業後、農学者を志して札幌農学校に進学、キリスト教の洗礼を受ける。1903年渡米。帰国後、志賀直哉や武者小路実篤らとともに同人「白樺」に参加。1923年、軽井沢の別荘（浄月荘）で波多野秋子と心中した。

12

熱い男、武郎！

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

1922年、『宣言一つ』を発表し、北海道狩太村の有島農場を開放。1923年、婦人公論記者で人妻であった波多野秋子と知り合い、恋愛感情を抱くが、秋子の夫に知られるところとなり、脅迫を受けて苦しむことになる。そして6月9日、二人は軽井沢の別荘（浄月荘）で縊死心中を遂げた。複数残されていた遺書の一つには、『愛の前に死がかくまで無力なものだとは此瞬間まで思はなかつた』と残されていた。

「宣言一つ」の発言内容を整理すると、大体次のようになる。

①労働者（第四）階級の自主自力による解放運動と単独純粋
②労働運動における知識人指導者の有害性と離脱勧告。
③自身の第四階級への移行不可能の認識。
④自身の文学活動についての階級的限界の自覚。
⑤マルクス・クロポトキンの評価。

革命への期待。

13

有島武郎の別荘「浄月庵」の部屋

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

7月7日に発見されるが、梅雨の時期に一ヶ月以上遺体が発見されなかったため、相当に腐乱が進んでおり、遺書の存在で本人と確認できたほどだという。遺体が発見されたとき、二人の遺体は蛆虫の巣と化しており、天井から床まで瀧のように蛆虫が湧き、別荘の屋外まで溢れかえっていたとされる。

14

ヘタレ野郎　武郎！

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

有島の辞世の歌

幾年の命を人は遂げんとや思い入りたる喜びも見で

修禅する人のごとくに世にそむき静かに恋の門にのぞまん

蝉ひとつ樹をば離れて地に落ちぬ風なき秋の静かなるかな

唐木順三の評

「いずれも少女趣味以上ではない」

（『自殺について』1950年）

15

有島武郎の作品

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

『カインの末裔』

評論『惜みなく愛は奪ふ』

『或る女』（大正８年）

明治三十年代のはじめ、早月葉子は母親佐の反対を押しきって当時文名のあがった新聞記者・木部と結婚した。葉子にとって、これは幸福を求めてのやむをえぬ母への反逆だったが、結婚後の木部の女々しい生活態度は彼女を失望させた。すでに妊娠していた葉子だったが、彼女は木部に離婚を宣言し、鎌倉の住居を去って日本橋呉服店の実家へ一応帰った。思いきった葉子の行動に母親佐は興奮のあまり卒倒し、そのまま床につく身となった。病中、親佐と葉子は厭く真に理解しあうようになったがそれも束の間、親佐は帰らぬ人となった。親戚一同は、母の遺言と称して葉子をアメリカにいる木村と結婚させることにきめた。里子に出している定子や妹愛子と別れ、葉子は絵島丸に乗船してアメリカに向った。航海中、葉子は絵島丸の事務長倉地三吉の男性的な魅力にはげしく惹かれ、アメリカに着いたとき、病気と偽って、逆上にきた木村ともちょっと会ったきりで上陸せずに日本に戻り、倉地と同棲生活を営んだ。この出来ごとはスキャンダルとして新聞に報道され、倉地は会社から減首されて、金を得るために秘密の仕事をしていた。妹愛子を引取って生活するようになったころ、葉子は次第に健康を害し、同時にヒステリー症がつよくなってことごとに倉地や愛子にあたった。一方倉地は機密漏洩を外人に売っていたのを当局に探知され、姿をくらましてしまった。葉子の病状はいよいよ悪化して入院することになり、手術のかいもなく、幸福を求めて苦しみつづけた一人の女、葉子は、ついに苦悩のうちに死んでいった。

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

志賀直哉

志賀 直哉（明治16年（1883年）2月20日 - 昭和46年（1971年）10月21日）

宮城県石巻市生まれ。旧相馬中村藩主相馬家の家令を勤め、古河財閥創始者古河市兵衛と共に

足尾銅山の開発をし、相馬事件にも係わった、志賀直道は祖父。父直温は総武鉄道や

帝国生命保険の取締役を経て明治期の財界で重きをなした人物。

学習院初等科、中等科、高等科を経て、東京帝国大学英文科入学。1908年ごろ、7年間師事した

内村鑑三の下を去り、キリスト教から離れる。国文科に転じた後に大学を中退した。

1910年に学習院時代からの友人武者小路実篤らと文芸雑誌『白樺』を創刊した。このころ、元々作家となること反対していた父との対立が、結婚問題などによりさらに深まったため家を出る。1917年には和解した。

同じ年に「城の崎にて」『和解』を発表。その後も『小僧の神様』、『焚火』などの名作を生んだ。推敲を尽くした簡潔な文体は、「無駄のない文章」として、大正から昭和にかけて多くの文学者に大きな影響を及ぼし、小説の神様とも称された。

著者唯一の長編小説である『暗夜行路』（1921年 - 1937年）は近代日本文学の代表作の一つに挙げられ、小説家・大岡昇平は近代文学の最高峰であると讃えている。

Dr．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

16

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

志賀直哉評価

白樺派の作家であるが、作品には自然主義の影響も指摘される。無駄のない文章は小説の文体のひとつの理想と見なされ評価が高い。そのため作品は文章修業のための模写の題材にされることもある。芥川龍之介は、志賀の小説を高く評価し自分の創作上の理想と呼んだ。当時の文学青年から崇拝され、代表作「小僧の神様」にかけて「小説の神様」に擬せられていたが、太宰治から長篇小説『津軽』の中で批判を受けて立腹し、座談会の席上で太宰を激しく攻撃、これに対して太宰も通戦評論「如是我聞」を書いて志賀に反撃したことがある。小林多喜二は志賀直哉に心酔しており、作品の評を乞うたこともあるが、多くのプロレタリア文学作家が共産党の強い影響下にあることを指摘して「主人持ちの文学」と評し、プロレタリア文学の党派性を批判した。また、戦後一時期新日本文学会の賛助会員として名を連ねたが、中野重治が発表した文章に不快感をおぼえ、賛助会員を辞退したいうこともあった。

戦時中は短文「シンガポール陥落」等を発表して当時の軍国主義的風潮に流される傾向にあったにもかかわらず、敗戦後は掌を返したように変節、日本語を廃止してフランス語を公用語にすべしと説いたこともしばしば批判されている。批判者の代表として丸谷才一を挙げることができる。これに対して蓮實重彦は『反=日本語論』や『表層批評宣言』などの中で志賀を擁護した。

志賀の人間性については「近代的で、自然と平和と調和と静謐を愛した」「家族を愛し、来訪者を大切にした」などと称えられることがある一方、極端な癇癪持でも知られ他者に対する好悪の落差が激しかった。

Dr．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

17

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

志賀直哉の文体

『暗夜行路』　『城の崎にて』　『和解』

『網走まで』　『大津順吉』　『清兵衛と瓢箪』　『小僧の神様』　『赤西蠣太』

『焚火』の最後の一節

先刻（さっき）から、小鳥鳥で梟（ふくろう）が鳴いてゐた。「五郎助」と云って、暫く間を置いて、「参公」と鳴く。

焚火も下火になった。Kさんは懐中時計を出して見た。

「何時？」

「十一時過ぎましたよ」

「もう歸（かえ）りませうか」と妻が云った。

Kさんは勢いよく燃え残りの薪（たきぎ）を湖水へ遠く抛（ほふ）った。薪は赤い火の粉を散らしながら飛んで行った。それが、水に映って、水の中でも赤い火の粉を散らしながら薪が飛んで行く。上と下と、同じ弧を描いて水面で結びつくと同時に、ジュッと消えて了ふ。そしてあたりが暗くなる。それが面白かった。皆（みんな）で拋った。Kさんが後に残ったおき火を櫂（かい）で上手に水を撥ねかえして消して了った

Dr．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

18

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

『暗夜行路』あらすじ

時任謙作には出生の秘密があった。謙作は、父のドイツ滞在中、母と祖父との間に生まれた子だった。幼馴染の愛子との縁談がこわれたのも、このことからであった。彼は放蕩を重ねた。謙作は祖父の死以後、その妾であったお栄と二人で暮していた。やがて、お栄を女として意識するようになった。年も上で、実際には父であった祖父と交渉のあったお栄に、そんな気持を抱くようになった自分を持てあました謙作は、旅行を思い立った。尾道へ行った。彼はお栄との結婚の決心を兄の信行に書き送った。その時、始めて出生の秘密を知らされた。謙作の父はこの結婚話に激怒して反対し、お栄も謙作の申し出を固辞した。謙作は再び東京を去り、京都に赴いた。宿の近くに療養に来ている、老人に附添う娘を見そめた。友人の高井や石本らの助力で、その娘・直子に結婚を申込み縁談はととのった。謙作夫婦は、京都南禅寺北の坊の草葺屋根の新居に住んだ。お栄は、従姉のおヌの勧めで中国へ渡った。が、盗難にあい、病気になった。謙作は金の工面をして送ってやった。謙作と直子の間に男の子が生れたが、生後間もなく丹毒で死んだ。またお栄から窮情を訴えた便りがあり、謙作は朝鮮まで行きお栄を連れて帰った。帰ってみると、直子との間にチグハグなものが感じられた。留守中に、従兄の要が泊っていったという。要と直子の間に間違いが起ったのだ。謙作は悩んだが、直子を許す決心をした。転機を求め、ひとり鳥取へ旅に出た。伯耆大山山麓の蓮浄院に寄宿した。日増しに心が落着いていった。ある白登山の一行に加わり、コレラに倒れた。直子が駆けつけた。謙作の眼は、愛情に満ちていた。直子も、高熱にあえぐ謙作の横顔を見つめながら、どこまでもこの人について行こうと思った。

Dr．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

19

Dr.ヒッキー 日本文化研究所 2014

白樺派の限界

①、自然主義の醜悪暴露の側面を打ち破った

②、人道主義を文学の側面で焦点化した

③、若い力の可能性を明示した

④、大学という場の可能性を明示した

⑤、理念が表層的

⑥、社会経験の不足

Dr．ヒッキー日本文化研究所　http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

20